

地元の海に愛着を

鎌倉、逗子、葉山でイベント

地元の海を知り、愛着を深めてもらうイベントが鎌倉、逗子市、葉山町内で5日、開かれた。海を拠点に活動する地元ゆかりの人々のトークショーや海岸清掃など多様な企画を通じ、延べ約1500人が大切なま

ちの資源に思いをはせた。

リビエラ逗子マリーナ（逗子市小坪）であったトークショーには、3市町の女性漁師5人や海洋冒険家

ら14人が交代で登壇。海水温上昇などの影響で海藻類が死滅する磯焼けや深刻化

する海洋プラスチックごみ問題などについて語った。

小坪漁業協同組合の大竹清司組合長とスーパースズキヤの中村洋子会長は、磯焼けの一因とされるムラサキウニを除去し、市場に出回らないキャベツを食べさせるキャベツウニ養殖について紹介。2人は「磯焼け解消は難しいが、今の海と付き合っていくための挑戦が大切」と話した。

同漁協の漁師小西弘子さんも「海藻はどんどんなくなっており、どうすれば孫



トークショーでは、鎌倉、逗子市、葉山町で奮闘する女性漁師たちも海や漁への思いを語った
＝逗子市小坪

難しく、どう向き合っかが大切」と呼び掛けた。

リビエラグループなどでつくる実行委員会が主催。元ラグビー日本代表の廣瀬俊朗さんも参加したビーチラグビー体験、海産物販売なども盛況だった。

の代まで海を維持できるか考えたい」、海洋研究開発機構の磯部紀之さんは「プラごみを完全になくすのは

（竹内 瑠梨）